

『校長会伝達事項』

教 育 長

令和5年5月24日

～ 変化し続ける社会の潮流を

しなやかに生き抜く子どもたちの育成を目指して ～

データ連携システムを活用し、その教育的効果について検証を重ねてきました。全国学力・学習状況調査では活用力を問う問題の正答率が向上し、中でも話すこと聞くことの領域が全国平均を上回ることが出来たことは、児童生徒への意識付けとしてICT機器の活用が効果的であったといえるのではないのでしょうか。

これから到来する Society5.0 時代を見据え、児童生徒の発達段階に応じた指導体制の在り方や、教育課程の在り方、一人一人の能力、適正等に応じた指導の在り方など、今後もさらなる研究を進め、本町の教育目標である「夢を育み、可能性を伸ばす」児童生徒の育成を目指してまいりたいと考えております。

「令和元年度ICT教育発表会、巻頭言から」

◆児童・生徒の成績及び学習意欲の向上といった成果は、「教師力」にあることは明白です。また、何よりも人的・物的管理に真摯に取り組まれている校長・教頭先生はじめ現職教育担当の先生方の力量、町指導主事及び各学校に常駐のICT支援員の心配りと細やかな協働が調和している証でもあります。

●Society5.0 とは内閣府が提唱する未来社会の姿で、狩猟社会 (Society1.0)、農耕社会 (Society2.0)、工業社会 (Society3.0)、情報社会 (Society4.0) に続く新しい社会として、「ICTや人工知能、ロボット等の先端技術を産業や社会生活に取り入れた変革によって、様々な知識や情報が共有され、今までにない価値を生み出すことで経

済成長と社会課題の解決をする人間中心の社会」を言います。

この変遷の歴史を分析すれば、物への価値観や科学技術の進展など、時代の潮流（流行）による影響が顕著です。

- ※ 『個別最適な学び』は、教師側の視点から重視してきた「個に応じた指導（指導の個別化と学習の個性化の二面）」を**学習者の視点から整理した概念**。『協働的な学び』とは、学校ならではのグループ学習や地域社会の方々等、他者と協働して主体的に実社会に関わる課題を解決しようとする探究的な学び、また体験活動を通して持続可能な社会づくりに必要な資質・能力を育成することを主としています。両者の要素が組み合って機能する質の高い学習（**深い学び・・・教え込むだけでなく、教えられたことを子供たち自身が考え・理解し、「Why？」を合言葉に、新たな課題を自らが意欲的に機器や書籍等で調べ、「Because,・・・」で疑問を解き明かそうと、チャレンジの姿勢で「学ぶ楽しさ」を実感する**）を持続し、『Deep-learning（深い学び）』、つまり、「わかる感動」を教師と子供たちが等しく経験することと捉えています。

【ICT教育のキーポイント】

1 人間と機器との調和 —Man-Machine-Harmony—

→ 人間（言葉と感情）、機器（迅速と正確）

それぞれの特質を活かした展開での相乗効果を想定した授業計画

2 情報収集力 → 知識力 → 分析力 → 整理力 → 言語表現

→ 発表し承認される経験が自信につながっていく（子供の変容）

← Group-learning（協働的な学び）での個々の文章から思想を理解しようとする Discussion（討議）を行い、Group 全体の意見としてまとめ上げて発表することで「Communication 能力」が身に付く。

3 **Communication 能力** = 「社会を生き抜く力」 ⇔ 現代・未来社会

→ 情報化・国際化の未来社会を生き抜く子供たちに不可欠なもの。

4 学校教育の基盤は「**教師力**」 ⇔ 国・地方教育行政の理解と物的支援が不可欠（保護者、地域社会等）。

※ 教師の意欲を喚起させ、実務を起動させて円滑な展開を導くのは管理職の叡智と勇気にほかならない。

※ 「**教師力**」 → 「**学校力**」 チーム学校には「**和**」が不可欠。

5 社会問題となっている不登校児童・生徒への効果的運用の探究

※ 学校側（担任・養護教諭・学年主任・管理職など）と S S R、S C、S S Wとの連動と共通理解 ← 個を埋没させない配慮の模索

6 Digital 教科書、Digital 学習ノート等の機器機材のユニーク & 効果的な活用実践

※ 新地町の学校ならではの「**先導的活用法**」は身近に必ず存在する。

◆教科書に取り入れられた「ARコンテンツ」。

◆中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」で語りかける機器活用の効果。← 先導的事業実践。

※ 教師は自分だけの発見・気付きとして活用・処理せずに、**研究授業**や**互見授業**で具体的に実践して確証を得ることが大切です。

【キーワード】

① 情報セキュリティ・・・情報を安心安全に使用出来る技術や対策

機密性（許可された人だけが利用できる）

完全性（情報が正確で、改ざんされていない）

可能性（必要なときに利用できる）

② プログラミング的思考

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要で、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたら良いか、記号の組み合わせをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかと、論理的に考えていく力。

③ 情報モラル・・・情報化社会で適正な活動を行うための考え方や態度。

情報化社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークなどが基本内容としてある。

【児童・生徒から言われて嬉しかった言葉】

- ◎ ありがとうございます。 ← 卒業式、離任式。
- ◎ (授業が) 分かりやすかった。面白かった。楽しかった。
← 授業が終わったとき。卒業メッセージカード。
- ◎ 先生が担任で良かった。また担任になって欲しい。
← 修了式の日。
- ◎ 勉強が好きになりました。先生のおかげです。
← 卒業後の同窓会、高校生になって。

【不適切な指導例】

学校における生徒指導は、近年、いじめの重大事態や暴力行為の発生件数、不登校児童生徒数や自殺者数等の増加傾向にあり、課題が深刻化していることから平成22年に3月に作成した「生徒指導提要」が、令和4年12月に改訂されました。内容をピックアップしました。

- ◆ 怒鳴る、ものを叩く・投げる等の威圧的・感情的な言動。
- ◆ 理由を聞かず、事実確認が不十分なままの思い込み指導。
- ◆ 組織的な対応を考慮しない、独断での指導。
- ◆ 人前で叱責するなど、人間の尊厳やプライバシーを損なう。
- ◆ 不安感や圧迫感を感じる場所での指導。
- ◆ 連帯責任など、必要以上の負担感や罪悪感を与える指導。
- ◆ 保護者に連絡せずに一人で残したり、帰らせたりする。